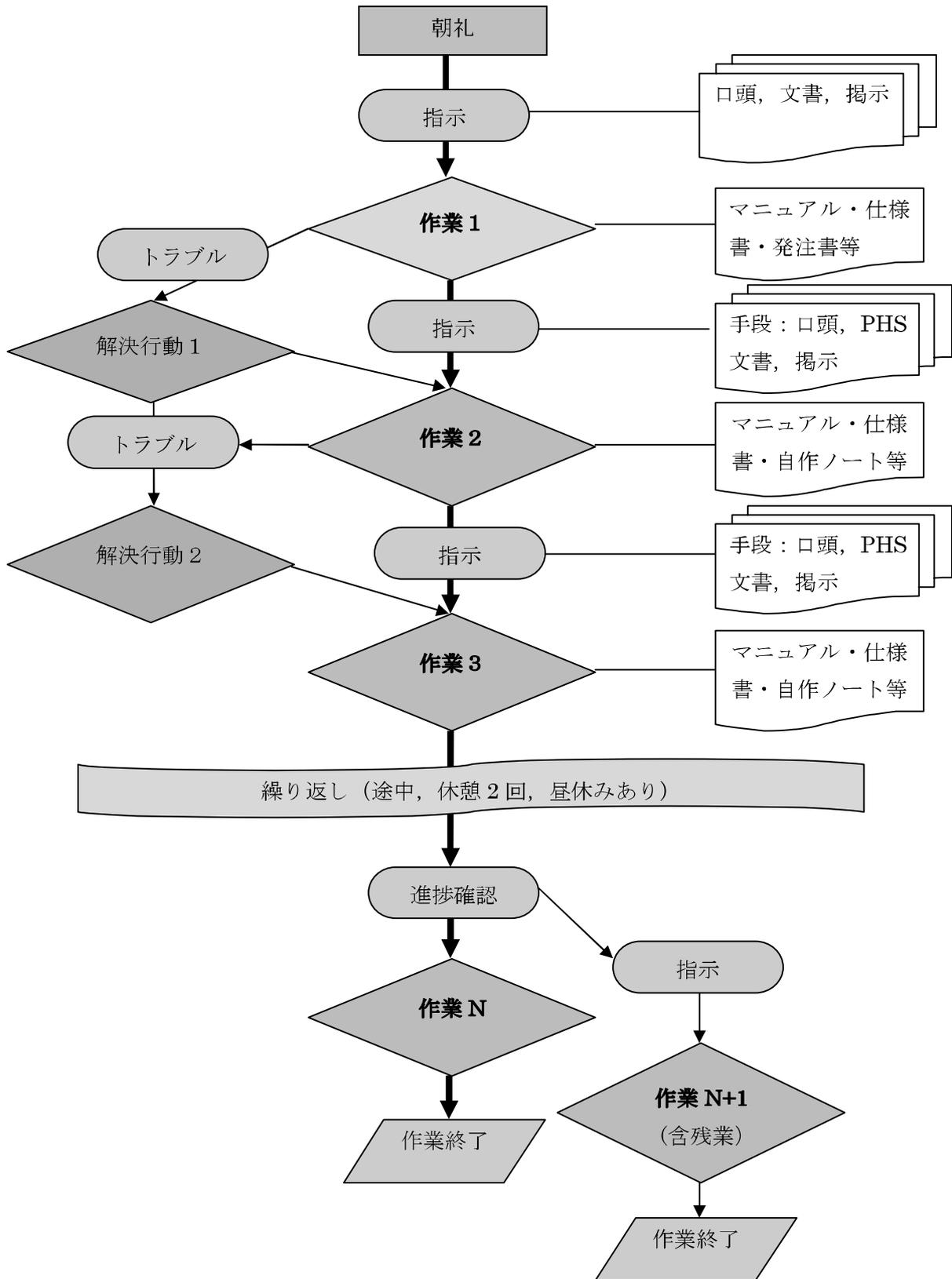


(2) 1日の行動の概観図

前述の行動観察資料から得た対象者の行動をフローチャート化すると、以下ようになる。



※ 朝礼と () のところで、コミュニケーションが必要となる。また、 [] においても必要となる。

(3) 録音調査の結果

録音調査により対象者のコミュニケーション行動（特に日本語を中心）を録音し、以下のような資料を得た。なお、文字化資料には、観察調査で得た行動、配置、使用資料等の補足情報が追記してある。また、文字化書式は、下記のように日本人・日系人の従業員がいる製造業の職場での日本語コミュニケーションの実態を知ることを主眼に置いた。そこで、独立行政法人国立国語研究所の書式は使わず、掲載した資料のように、簡略化したものを用いた。

- ✧ 日本人・日系人の従業員がいる職場のコミュニケーションとはどのようなものか。
- ✧ 製造業の職場でのコミュニケーションとはどのようなものか。
- ✧ どのようなとき、日本語によるコミュニケーションが必要となるか。主な話題は何か。
- ✧ 仕事に必要なコミュニケーションとは何か。
- ✧ 作業中、コミュニケーションを円滑に図るためにはどのようなことが不可欠か。
- ✧ 現在の日系人従業員はどのようなコミュニケーション力が不足しているのか。
- ✧ 作業遂行において、どのような日本語を読み、理解、使用する必要があるのか。

このようにして得た文字化資料であるが、ここでは、以下の理由により、その中の一部のみを掲載する。前に記載した文字化資料も同じ理由で選んだものである。

- ✧ 日本語教育カリキュラム開発のための基礎資料とするものである。
- ✧ 日本語学習の目標を考えるための基礎資料とするものである。
- ✧ 個人情報を多く含み、それを削除して記載しても文脈が理解できず、理解が困難である。
- ✧ 日本語によるコミュニケーションが必要となるのは、問題発生、依頼、報告、説明等の場面である。
- ✧ 理解度 30%の人の文字化資料は現状を把握するものである。
- ✧ 理解度 70%の人のコミュニケーションは今後を考える一つの指標となる。

B.R. (理解度 70%) 文字化資料 1 【作業】

B.R. : ちょっと（聴取不能）大丈夫↑いい↑

同僚 : いいけど。

B.R. : どこ↑ペライー、ペライー（ポルトガル語「ちょっと待って」）大丈夫↑いい↑

同僚 : これでいいよ。

B.R. : 発注、今週ね↑わかる↑

同僚 : 9500E。これも発注、いいです。

B.R. : はい、ありがとう、ありがとう。

同僚 : これ、やりかた、聞ってる↑

B.R. : そうそう。ありがとう。

同僚 : いい↑

B.R. : お願いします。ありがとう。

B.R. (理解度 70%) 文字化資料 2 【作業】

B.R. : ○○さん↑ごめんね。これ、なに↑

同僚 : 終わってる。入力が終わってる。

B.R. : わかりました。(長い間合い)

B.R. : ○○さん↑これ、いらない↑

同僚 : うん、これ、いらない。

B.R. : ごめん、ごめん。(笑い) ありがとう。(長い間合い)

B.R. : ○○さん、ここ↑ここ↑こっち↑

同僚 : (聴取不能)

B.R. : ありがとう。

E.N. (理解度 70%) 文字化資料 3 【朝礼】

上司 : おはようございます。

全員 : おはようございます。

上司 : えー、1月の比率結果ですけれども、マウンターの生産台数*台、不具合が*台、全体直行率が**.*%、Aランク以上の直行率が**%でした。JWは生産台数が***台、不具合*で直行率は全体・Aランク以上共に*%でした。えー、直行率の目標ですけれども、○○さん・・・、よろしい。

○○ : はい、**%。

上司 : そーすると、直行率が**%かな。で、Aランク以上が**%以上になったっていうことかな。えーとっ、マウンターは全体・Aランクともに未達成ですので、さくじつ不具合の状況確認を行いました。えー、ベースダブルのチームを作り再発防止を図っています。他の工程も良いところは真似してお手伝いしましょうということですが。さくじつ***ですけれども、Y軸カバーの不締りが発覚しました。これについてちょっと10時の休憩後30分程度ですけれども、休憩所でちょっとミーティングを行いたいと思いますので、10時の休憩後休憩所のほうへ、禁煙の休憩所のほうへ集まってください。次に、明日は改善提案のしめきり日になっていますので、早めに提出して下さい。あと、さくじつですけれども、来客駐車場のほうに無断で車を停めたかたがおります。どうしても、駐車しなくてはならない場合は、職長へ理由を説明して下さい。内容を確認し許可証を発行します。えー、今日は作業中断ルールをE.N.さんから。

E.N. : キリの良いところまでやって。

同僚 A : 中断時は必ず停止する。

同僚 B : (聴取不能)

上司 : 今日も不良を出さないように、気をつけて作業して下さい。以上です。今日も全開で行こう！よし！

全員 : E.N. : 今日も全開で行こう！(指差ししながら)よし！

E.N. (理解度 70%) 文字化資料 4 【作業】

同僚：これちょっと、ここ見てもらえます。

E.N.：ん～ん、ど一ゆう？

同僚：これこれ、ここね。何てゆ一か、これ、やるの忘れちゃって。最初はこれやったんですけど、これこれ、ちょっとこっちやり過ぎちゃったんですよ一。これを前に。

E.N.：前に。

上司：これをはずして、E.N.さん。ん一、またこれを確認するの忘れちゃったんだ一。これもね一。

E.N.：ん一。

上司：今、これ、こっちきちゃってるけど、これをこれ、別に特にこれ、目測でいいもんで、中心のほうがいいにはいいじゃんね。

同僚：そ、いつもそうじゃんね。

上司：中心中心っていわれて。ほかもそうだけど、全部そうだけど。うんうん。

同僚：あ一、これ、真ん中のほうがいいっすか↑

E.N.：そう、真ん中だよ。中心に。(ポーズ) あとは。

上司：これ、これ、引っ張ってるだけだもんで。だもんで、スプリングでしみ込んで、これを引っ張ってるだけだもんで。強いていえば中心のほうが。逆にこれで間違えじゃないけど、基本は中心だね。そう真ん中だね。全部。全部こうゆうふうに。

E.N.・同僚：あ一一。

上司：じゃ一、あば出し、あば出し。うん。これもう一回。これ、だいたい中心にして。これも一回フリーにしちゃおう。

E.N.・同僚：あ一一。

E.N.：はい、どうぞ。

上司：E.N.さん。ちょっと見てください、音。ちょっとチェック。

E.N.：はい。チェック。

上司：どう↑音はそんな変わらん↑グッド↑

E.N.：グッドよ。

上司：ちょっと重いね。分からん。ここ、閉めて一。

E.N.：ここ↑

上司：これ、ゆるめてあるけど、違うだよ。本当はない状態で、音、鳴れば。鳴れてくればいいけど、ちょっと気になる↑

E.N.：ここだけね。ここだけちょっと。

上司：あ一。

E.N.：このね、この、戻るとき。ないほうがいいかな。両方。

上司：両方いい↑

E.N.：こうして、ここ、こうして。

E.N. (理解度 70%) 文字化資料 5 【作業】

リーダー：こっちはいい↑

上司：こっちはどう↑

E.N.：こっちはいいよ。OK です。

上司：そうはゆっても、あんまりいいのじゃない。

リーダー：それは、KDC とコード、なってるじゃんね。

E.N.：そう。KDC と一緒。

リーダー：KDC の。KDC のほう、そうあったじゃんね。

E.N.：違うよ、あれは。KGC, KGM だけ↑KDC はいつもあなた。

E.N. (理解度 70%) 文字化資料 6 【作業】

同僚：E.N.さん (聴取不能) 切ってあったやつ、あったら、あれ、貸して↑

E.N.：これじゃー短いね↑

同僚：いいよ、これで。これ、余るね↑長い、なかったっけ↑

E.N.：長いの一。

同僚：いいよ、いいよ。それ、貸して↑

E.N.：だいたい一緒だ。

E.N.：〇〇さん、お願いします。

〇〇：はい。

E.N. (理解度 70%) 文字化資料 7 【作業】

上司：どこやってるの↑

E.N.：(聴取不能) 軸から↑

上司：(聴取不能) 軸から↑こっちは↑

E.N.：こっちは欠品のほう。まだ、(聴取不能) 終わってない。

上司：よっしゃあ。(聴取不能) 軸から。はい。

E.N.：今日は(聴取不能) のほう、やろう。きょう、何時間。

上司：とりあえず、(聴取不能)。あれ、なに↑あれ、のせるの↑

同僚：あれとりあえず、欠品。あれ月曜日↑

上司：月曜日。とりあえず。きょうは2時間。

E.N.：<笑い>あははっ。2時間↑2時間。はい。

同僚：明日、残業でやってくわ。

上司：とりあえず、ACD テーブル。

E.N.：はい。

【(3) の総括】

記載はしなかった文字化資料も含め、録音データ、文字化資料から、作業における日本語コミュニケーションについてまとめる。

1. 基本は、聞く相手や工場内の配置等を含む作業システムの知識、作業に必要な語彙知識、製品に関する知識といった情報 (Information)、品質や操作や労働に対する感覚と工夫する意欲 (Intelligence) と、作業に必要な日本語コミュニケーションは、深く関係する。
2. 問題発生時における他者への呼びかけ、問題点の説明、解決方法の検討、文書や図表を見ながらの説明、作業依頼、道具貸与の依頼、現状報告といった場面で、的確に、簡潔に、短時間で、要領よく、日本語でコミュニケーションすることが必要となる。ときとして、単語レベルでも構わない。
3. 共通の情報や知識があることが前提で、作業上のコミュニケーションは行われる。そのため、部品等の語彙、回すや黄ペンなどの動作や操作に必要な語彙、指示代名詞とその指す意味の理解と使用が必要となる。
4. 眼前にある具体物を前に、指差し等のジェスチャーとともに指示代名詞を頻繁に使うため、その意味するところを理解するのは、作業内容に関する知識があれば、問題はない。
5. 話し言葉では、言い方の違い (方言アクセント、省略や短縮した語彙や表現、辞書のように正確ではない発音・調音など)、書き言葉との違い (促音化、濁音化、長音化など)、終助詞や文末表現に含まれる意味合いを理解することが必要である。
6. 表現の意図やその表現が持つ意味機能を理解する必要がある。
7. 話し言葉での非文法的な表現への対応力が必要である。
8. 自分の意見を述べる力が必要である。

(4) 面談調査の結果

面談調査は、当初の計画では録音で収集し文字化した資料をもとに、調査対象者に対して日本語表現形式と表現意図についての聞き取りを行うことを考えていた。しかし、派遣社員である調査対象者は、退社の時間と帰宅手段に制約があり、退社直後の長時間の面談調査は実施が困難であった。また、他日の面談調査は、調査員との日程調整、録音調査からの時間的な間隔などの問題があった。

協議、調整し、面談調査は、退社直後の 30 分程度 (一人当たり) で実施することになった。面談の内容は、文字化資料を参照しながら日本語についての聞き取りを交えつつ、日本語による意思疎通の程度の把握に主眼に置いた面談を行うことにした。これは、30 分という面談時間の制約と工場の観察で得た知見を踏まえて次のことを検討した結果である。

工場での作業工程におけるコミュニケーションは、作業員間に共通の知識や認識があって行われることが多い。作業員間に共通の知識や認識は、次ページ写真 (掲示物) のように、従業員の技能、レベルに大きく関係する。ヤマハ発動機株式会社 IM カンパニーは、作業における日本語理解度ということで、90%、60%、30%の三段階で調査対象者をはじめとする外国人従業員の日本語コミュニケーション力を段階分けしている。これは、技能と日本語力との関係から、作業に必要なコミュニケーション (特に障害時の情報伝達、作業工程説明など) を重視したものである。

しかし、実際の日本語によるコミュニケーションでは、必ずしも共通の知識や認識があるわけではない。むしろ当事者間で共通化、共有化を図りながら、意思疎通が行われる。したがって、面談調査の目的として、調査対象者の一般的なコミュニケーション場面での日本語使用・理解の実態を探ることに変更した。

【参考】写真 23A・B：会社が判定する技能レベルと評価基準（工場内掲示より）

		レベル	
		初級レベル	
	評価内容		
	治工具・測定器	・作業に必要な治工具及び測定器の取扱いが出来る	
	作業・検査	・指導された通りの作業が出来る	
	測定・判定	・指導された通りの測定・判定が出来る	
	常時の対応	・不良発生時、指示された人へ連絡出来る	

面談調査では、前述のとおり日本語による意思疎通の程度の把握を主眼に置きつつ、以下のことを話題として取り上げ、面談を行った。

- ・ 会社内での日本語使用
- ・ 会社外の生活場面における日本語習得と日本語使用の環境
- ・ 会社内外におけるポルトガル語使用
- ・ 会社内外の人間関係
- ・ これまでの日本語学習環境
- ・ 日本語学習ニーズ
- ・ 作業で使われる日本語表現形式・単語の意味理解の有無
- ・ 作業中の日本人の日本語についての理解度と問題意識
- ・ 作業に必要な日本語の獲得の状況
- ・ 日本語についての自己評価

面談調査での話題の例と結果を以下に挙げる。

Y.P.（理解度 70%）との面談から、「会社で日本語を学習、ポルトガル語で子供と会話、自分の作業や会社内の仕組みの説明ができること、ポルトガル語で作業の教示すること、日本人と作業して日本語を学習、職長との会話は理解可能、できないことはできない／分からない／だめと言うこと、日本人の新人に教えていること、2年従事していること、最初は作業用語が分からず困ったこと」が分かった。

N.S.（理解度 90%）との面談から、「会社で日本語を学習、指示代名詞の使いこなしが難しいこと、日本語で冗談のやりとりをすること、日本人と作業して日本語を学習、ポルトガル語で子供と会話、自分の作業や会社内の仕組みの説明ができること、ポルトガル語で作業の教示すること、部品用語はすぐ慣れたこと」が分かった。

以下に、面談調査でのやりとりのうち、理解度 30%、70%を中心に、50%、90%の代表例を記す。

【M.K.】（理解度 30%）

<面談 1 >

調査者：日本語，勉強しました↑

M.K.：ブラジルで。

調査者：あつ，ブラジル↑

M.K.：ええ。

<面談 2 >

調査者：今何のメカをやってます↑

M.K.：80 型。

調査者：80 型。大型↑中型↑

M.K.：うーん。機械。

<面談 3 >

調査者：あの，よく使う日本語ってなんですか，ヤマハで↑

M.K.：疲れた。

調査者：疲れた↑

M.K.：うん。

調査者：残業↑

M.K.：うーん↑

<面談 4 >

調査者：（認知マップを見ながら）はい，ありがとうございます。これは何て書いてありますか↑

M.K.：お母さん，お父さん。友達。

調査者：友達↑

M.K.：うん，友達。

調査者：こっちは↑

M.K.：仕事。

調査者：IM の友達↑違う会社↑

M.K.：そう。

<面談 5 >

調査者：休みはありますか↑

M.K.：今日。

<面談 6 >

調査者：お姉さん日本語出来ますか↑

M.K.：できる。

調査者：お父さん，お母さんは↑

M.K.：できる。

<面談 7 >

調査者：それ（ポルトガル版指導マニュアルのこと），見ます↑

M.K.：今，見ない。

<p><面談 8></p> <p>調査者：うん，仕事で困ったとき，Kさんに聞く↑それとも，Yさんに聞く↑</p> <p>M.K.：あー，はい。</p> <p>調査者：誰に聞く↑</p> <p>M.K.：N（同僚の日系人のこと）さん。</p>
<p><面談 9></p> <p>調査者：Mさんに聞くのはどんなとき↑</p> <p>M.K.：うーん。不良。</p> <p>調査者：不良のとき。Nさんは↑も，不良のとき↑</p> <p>M.K.：メカの不良のとき。</p> <p>調査者：あれ，じゃあ，欠品のときは↑</p> <p>M.K.：Mさん。</p>
<p><面談 10></p> <p>調査者：その友達は昔から仲いい友達↑</p> <p>M.K.：仲いい友達。</p> <p>調査者：一緒に浜松来たの↑</p> <p>M.K.：うーん，学校が一緒。</p>
<p><面談 11></p> <p>調査者：8時から仕事を↑</p> <p>M.K.：うん。</p> <p>調査者：12時まで↑何時まで仕事をしますか↑</p> <p>M.K.：5時まで。</p> <p>調査者：お昼。12時↑</p> <p>M.K.：12時半。</p>
<p><面談 12></p> <p>調査者：いつも，休みの日は何してますか↑</p> <p>M.K.：まだ，分かんない。</p>
<p>【F.T.と T.D.】（理解度 30%）</p>
<p><面談 13></p> <p>調査者：クリーンルームの仕事は白ペン，黄ペン，使います↑</p> <p>F.T.：私は使わない。</p> <p>T.D.：使わない。</p>
<p><面談 14></p> <p>調査者：あつ，二人（F.T.と T.D.の意味）は同じ仕事じゃないの↑</p> <p>F.T.：ところは一緒だけど，仕事は違う。</p>
<p><面談 15></p> <p>調査者：その意味はどうやって勉強しました↑（F.T.：うーん）ブラジル人から教えてもらいました↑</p> <p>F.T.：うん。</p>

<面談 16>

F.T. : あっはっはっ。「今日もゼロサイで行こう, よし!」

調査者: ゼロサイって何↑

F.T. : 不良ゼロ。

調査者: あー, 「今日もゼロサイで行こう, よし!」 “よし!” っていう意味分かる↑

F.T. : ん↑「よし!」↑, 分かんない。OK↑

<面談 17>

調査者: あの中 (クリーンルームの意味) だけで, 日本人何人いる↑クリーンルームの日本人。

F.T. : うん。

調査者: 日本語で話す↑

F.T. : ちょっと。

調査者: ちょっと↑

F.T. : うん。

調査者: 仕事だけ↑

F.T. : うん, 仕事だけ。

調査者: 遊びの話, しないの↑

F.T. : 遊ぶ↑うん。

調査者: マジメ↑

F.T. : あははっ。

<面談 18>

調査者: 皆さんは会社まで歩いて↑バス↑車↑

F.T. : 車で。

調査者: 車。近い↑

F.T. : 近い。うん。

<面談 19>

調査者: これ (「だりーよー。」って言った人のこと), 日本人↑

F.T. : 日本人です。

調査者: 変な日本語だね。

F.T. : あっははっ。

調査者: Xさんとよく話します↑いつもこんな話↑Xさん, サブリーダーじゃないよね↑

F.T. : 違う。あの一, 会社員。

調査者: 同じ仕事↑

F.T. : ううん, 違う。

調査者: 違う仕事。同じ場所↑

F.T. : 場所↑

調査者: クリーンルームの中のすぐ近く↑Xさん, この辺↑

F.T. : うーん。後ろ↑

調査者: 後ろ。Xさんとよく話す↑

F.T. : あっははっは。

<面談 20>

調査者：あー。あの、お昼食堂行かないの↑休み時間、休憩室行かないでしょ↑

F.T.：嫌い。

調査者：嫌い。何で↑タバコ↑

F.T.：ううん、違う。あっはっは。

調査者：お昼はお弁当↑

F.T.：お弁当。

調査者：自分で↑(F.T.：うん。)へー。で、そのお弁当のものは、どこで買います↑ブラジルのお店↑

F.T.：日本のお店。

調査者：何を作るのお弁当って↑

F.T.：ご飯，肉，サラダ。

調査者：あつ，ホント↑

F.T.：うん。

調査者：ブラジルの人，お米，ご飯沢山食べます↑(F.T.：ん↑)ブラジルの人，ご飯沢山食べます↑
パンじゃない↑

F.T.：うんうん。朝はパン。

<面談 21>

調査者：今、クリーンルームで一番仕事を教えてくれるのは誰ですか↑Xさん↑

F.T.：Yさん。

調査者：Yさん↑(F.T.：うん。)日本人↑

F.T.：ブラジルの。

調査者：あー，じゃあ，ポルトガル語で教えてくれる↑

F.T.：うん。

【S.R.】 (理解度 50%)

<面談 34>

調査者：今日は，午前中は，お仕事ですか↑

S.R.：ないですね。お休みです。

調査者：あとは，お休みは何をしてるんですか↑

S.R.：えー，今，バイク，乗ってるんで。

調査者：バイク↑

S.R.：後は，ビリヤード。

調査者：あー，ビリヤード。どこですか↑

S.R.：高岡の近くの，アピタの近くの。

<面談 35>

調査者：会社の友達と休みの日，遊ぶ↑(S.R.：ん↑)会社の友達，ヤマハの友達と休みの日，遊ぶ↑

S.R.：うん，遊びます。

<面談 36>

調査者：会社のヤマハの同じブラジルの人とよく話す↑

S.R. : うーん, 話すね。

調査者：会社だけ↑

S.R. : 会社だけ↑

調査者：いや, じゃなくて会社の人と話すのは会社だけ↑

S.R. : うん, 違うですね。外のこととか何でも色々話します。

<面談 37>

調査者：日本の友達ってどこでできた↑

S.R. : 前会社ね。

調査者：前の会社。へえー。

S.R. : うん。前は焼津に住んでた。あと浜松に引っ越したと。焼津, すごい日本人, いるね。友達。

調査者：日本人がいたとき, 日本語↑

S.R. : 日本語で, うん。それで, すごい日本語, 覚えた。その友達, 教えた。

調査者：その人, 同じ会社の人だった↑

S.R. : そうそうそうそう。

<面談 38>

調査者：日本語で話しをするのはどういうとき↑会社は別として。

S.R. : あー, 日本語のときは, 一番話すは遊び。どこがいい。

調査者：どこ行くとか↑

S.R. : うん。

<面談 39>

調査者：会社にいるとき, 日本語使うから日本語の勉強になる↑ならない↑

S.R. : ならないですね。あまり, 家で勉強してるね。

<面談 40>

調査者：(録音を聞き, S.R. が言っていたので) 日本語, 知ってる↑馬鹿になってるっていう。

S.R. : 知ってる。

調査者：そんなのどこで覚えたの↑

S.R. : 友達から。

調査者：友達↑日本人の↑

S.R. : そう。

<面談 41>

調査者：S.R. さんの上司っていう人は, 名前, 分かります↑

S.R. : 上司↑

調査者：リーダー。

S.R. : あっ, リーダー。分かります。

調査者：この人とよく話す↑

S.R. : そうですね。

調査者：一番話すは, 作業のとき↑

S.R. : 日本人の人はそうですね。

調査者 : S.R.さん, と, あのー, そのボスの人の名前何だっけ↑

S.R. : A (下の名前)。

調査者 : みょう字↑下の名前↑

S.R. : うーん。みんな, A って呼んでる。

<面談 46>

調査者 : こういうときって, S.R.さんから聞きに行くの↑

S.R. : そうです。だめだ, 問題だ。

調査者 : 最初は自分で, 分からなかったらリーダー呼んで。呼ぶの↑

S.R. : そう。で, もう2度も分からなかったら, あの職長呼んで。

調査者 : 問題なとき, 何て言う↑すいません。ちょっと来て下さい↑

S.R. : そうです。すいません。ちょっと来て下さい。問題あります。

<面談 47>

調査者 : 最初の頃に覚えて, ヤマハに入って最初に覚えていい言葉。悪い言葉は不具合とか。

S.R. : あははっ。いい言葉は, 「今日, 定時でいいですか↑」ははっ。

<面談 48>

調査者 : S.R.さんって, 僕って言う人↑俺って言う人↑私って言う人↑ (S.R. : ん↑) 俺, 私, 僕↑どれを言う↑

S.R. : うーん, 俺。

調査者 : それ, 多分, 焼津の人が俺だったから。

S.R. : そうそうそう。あははっ。

<面談 49>

調査者 : あの, この後もヤマハにいる希望あります↑ヤマハにいたい↑仕事するつもり↑ヤマハでこの後。ずっと。

S.R. : そうね。

調査者 : そう。もうちょっと, こう, 上に↑

S.R. : あーあー。それは, まだ。このままでいいです。

調査者 : 今だと, いつまでヤマハにいるの↑

S.R. : 分からない。できれば長く。

<面談 50>

調査者 : たまたま, 日本人の友達が言ったのをそのまま使うようになった↑

S.R. : そうですね。

調査者 : ちなみにあの, Aさんとか周りの日本人の日本語で, 分からないときってあります↑

S.R. : あります。

調査者 : どんなとき, わからない↑単語が難しい↑スピードが速い↑

S.R. : スピードじゃなくて, あの知らない言葉。

調査者 : でも, 部品とか機械の名前は, だいたい分かってるでしょ↑

S.R. : だいたい分かってる。

調査者 : それ以外のこと↑

<p>S.R. : うん, 最初は全然分からなかった。</p> <p>調査者: でも, あの部品の名前なんて大変でしょ↑</p> <p>S.R. : うん。英語でね, 部品の名前。</p> <p>調査者: どうやって覚えたの↑ノート, つけて↑</p> <p>S.R. : そう。</p>
<p><面談 51></p> <p>調査者: それは, A さん (職長のこと) は呼ばないんですか↑少しのことだったら友達同士↑</p> <p>S.R. : そうですね。</p> <p>調査者: A さん, 呼ぶときって, すごい大変なとき↑</p> <p>S.R. : そう。</p> <p>調査者: それって, たくさん, 何回もある↑1 か月に。</p> <p>S.R. : 1 日に 1 回くらいある。</p> <p>調査者: 1 日 1 回。あー, そのくらいあるんだー。それは, ボルトの問題↑</p> <p>S.R. : ボルトの問題とか, あと部品のとか。ときどきはボルト, 入らないとか。</p>
<p>【E.N.】 (理解度 70%)</p>
<p><面談 52></p> <p>調査者: (録音を聞きながら) 結構たくさん, 日本語の言葉を使ってますね。</p> <p>E.N. : コンベアーの組み立て, コンベアーの前基準, 後ろ基準, それが 1 番使うね。間違えないし。間違えたらだめだ。</p>
<p><面談 53></p> <p>調査者: また, ヤマハの教室, やってるので。</p> <p>E.N. : でも, 時間ないね。会社の残業もあるし。子どもと遊びたいのもあるし。だから, 自分, ちよつと頑張らないといけないね。家でも勉強するとか。最初に覚えとかなないと難しいな。後で直すのは難しい。最初にしっかり覚えた方がいい。</p> <p>調査者: 日本語でも, 勉強してるんですね。それはえらいと思います。仕事しながら勉強するのはなかなか大変ですよ。</p> <p>E.N. : そうそう。仕事して勉強するのも, ちよつと疲れてる。土曜日・日曜日にした方がいいかな。仕事終わってからは疲れてる。</p>
<p><面談 54></p> <p>E.N. : そう。例えば, 部品の問題あったら電話で言うのは難しい。</p> <p>調査者: あー, 電話はありますか↑</p> <p>E.N. : 電話↑そう, 電話ある。みんな, 持ってるね。どこにいる, 分からなかったら連絡するね。いる人に。物は見るから分かる。説明する。できる。だから, 電話から話難しい。</p> <p>調査者: あっ, なるほどねえ。</p> <p>E.N. : いる人に。</p>
<p><面談 55></p> <p>調査者: あっ, ヤマハのクラスには出たことありますか↑日本語のクラス↑</p> <p>E.N. : そう, あれが初めてね, ヤマハ。ほんとはいつも自分で日本語の勉強。だから, ちよつと下手。</p>

調査者：いえいえいえ。

E.N. : だから、直したい、私。私の話で悪いところ。どこが違ってる↑話したい、私。だから、言葉、少ないね、私。

調査者：あっ、そっかヤマハのクラスが初めて↑

E.N. : そう。

調査者：そのときまで日本語はゼロ↑

E.N. : そう、ゼロ。

調査者：ほんと↑

E.N. :ほんと、すごい難しい。

調査者：すごい、しゃべれてる。

E.N. : ヤマハの前の会社で6年、仕事、働いてるけど、ブラジル人だけで、日本語なんてしゃべらない。全部、ポルトガル語。ヤマハで初めて日本人と一緒に。ヤマハも最初はあんまり。

調査者：ほんと↑でもすごい、日本語、しゃべれてる。

E.N. : 最初、ブラジルから日本に来て、私と奥さんと、2年って決まっていたのね。2年働いて、またブラジル、帰る。でも、ずっと。子ども、日本で生まれたから。

調査者：じゃあ、1回、こっちに来て帰って、また、戻って来たってわけか↑

E.N. : そう。2000年だけ1回、ブラジルに帰って、また、戻ってきた。

調査者：じゃあ、日本結構長い。

E.N. : うん、長い。もっと頑張れば、もっとペラペラだった。最初に来たときに、日本にずっといるって決まれば、もっと日本語、覚えた方がいい。漢字とか。だいたいみんな、2年とか4年とか働いて、ブラジル帰るから、だいたい日本語覚えとけばいい。だから、ヤマハも日本語できる人は正社員。正社員じゃなくて派遣会社だけで大丈夫。正社員なんて考えてないの。ずっと住んでないし、すぐブラジル帰っちゃうもん。日本語、覚えな。だから、今、もうブラジル人、家も買うし。日本ずっと住んでたいし。

調査者：うんうん。日本で働いてブラジルに遊びに行く↑

E.N. : うん、そう。子ども生まれて、ブラジルの学校、あまり良くないね。とりあえず、日本で大きくして、その後、ブラジル帰ってもいいし。とりあえず、日本にいて大きくしたい。

<面談 56>

E.N. : (聴取不能) 子ども生まれるから病院で。

調査者：あー、それで必要性を感じた。困ったから、勉強したんですね。

E.N. : そう、困ったから。

調査者：1日、どのくらい勉強しますか↑1週間に↑

E.N. : (ポーズ) 辞書とかみて。後は、友達に聞いて。でも、日本語すぐ忘れちゃう。家では使わな。いね。会社だけ。

【B.R.】 (理解度 70%)

<面談 22>

調査者：後は、日本語はどうやって勉強しました↑日本に来てから↑

B.R. : うんうん。あたしだけね。旦那さん、分かるね、日本語。

調査者：旦那さん、日本の↑

B.R. : ううん, 違う違う。

調査者: 旦那さんはブラジルの↑ (B.R. : うん。) ブラジルに住んでる↑

B.R. : ううん, ここ, ここ。

調査者: あー, 浜松。IM で一緒に働いてる↑

B.R. : ううん, 違う違う。ははっ。

調査者: じゃあ, 旦那さんの方が日本語しゃべれて, それで勉強しました↑

P.R. : うん, そうそう。

調査者: 旦那さんは, ブラジルで日本語勉強しました↑

B.R. : ここ, ここ。

調査者: あー, 浜松↑ (B.R. : うん。) じゃあ, B.R. さんも一緒に↑

B.R. : ううん, 違う違う。あの, 旦那さんの分かる日本語ね, 旦那さんだけの。あとは旦那さんの分かる日本語を私勉強。

調査者: あー, 分かった。旦那さんは, 浜松で日本語勉強して, そっから教えてもらってるんですね。

B.R. : そう。

<面談 23>

調査者: 一番よく聞く単語は何ですか↑例えば, 不良とか欠品とか, よく聞く日本語の単語は何ですか↑ボルトとか, いっぱいありますね。

B.R. : うん, いっぱい。

調査者: 1 番, 1 番。

B.R. : 1 番は, コルクは忘れた, 全部締めた, ね。

調査者: あっ, 黄ペン↑

B.R. : そう, 黄ペン。

調査者: あー, 全部締めたら黄ペン↑

B.R. : 黄ペン。

<面談 24>

調査者: 後, ここ IM で後どの位働きたいですか↑1ヶ月↑1日↑1週間↑もつと↑

B.R. : うーん。2月3月4月。うーん。1年。

調査者: あー, もうすぐ一年↑

B.R. : うん。

<面談 25>

調査者: (残業について) どのくらい↑ちょっと↑

B.R. : ううん, あんまりしないね。ちょっと。毎日じゃない。

調査者: あー, するときもある↑しないときもある↑

B.R. : うーん, ちょっと。ちょっと。

調査者: 今日はしますか↑

B.R. : 今日まだ分かんない。

【N.S.】 (理解度 90%)

<p><面談 26></p> <p>調査者：ヤマハの日本語教室行ったことあります↑</p> <p>N.S. : うーん, 3回くらい。</p>
<p><面談 27></p> <p>調査者：お仕事は大変ですか↑毎日, 残業↑</p> <p>N.S. : 残業してないね。</p>
<p><面談 28></p> <p>調査者：N.S.さんのリーダーに当たる人は, 名前何て言うの↑</p> <p>N.S. : Mさん。</p>
<p><面談 29></p> <p>調査者：N.S.さん, 日本語上手なんですけど, それどこで覚えたの↑</p> <p>N.S. : えーと, ブラジルのちょっと日本の学校行った。</p> <p>調査者：あ, ブラジルの日本語学校。こっちはどっか学校↑日本人から勉強したっていうことはない↑</p> <p>N.S. : ない。</p> <p>調査者：それにしても日本人の日本語なんだよなあ。</p> <p>N.S. : 長いから。もう 18 年。</p>
<p><面談 30></p> <p>調査者：どんな日本語の勉強ができるといいでしょう↑これから来る人たちが。</p> <p>N.S. : あのね, 単語が難しい。</p> <p>調査者：部品の名前とか↑</p> <p>N.S. : 例えば, 仕事で, 調べるとか, 食べられるとか, 食べますとか。</p> <p>調査者：あー。あの, 文章だけなんだけど, 書いてあるものだけなんだけど, 例えば, 処理, 記録表とかね。棚卸しとか製品番号とかあるんですけど, こういうのは作業で覚えていく↑</p> <p>N.S. : そう。まー, あんまり使わないね。</p> <p>調査者：日本人の日本語で分かりにくいのは, 例えばどういう日本語↑「これ」, 「それ」なんかは困るんじゃないかな↑</p> <p>N.S. : そうだね。あと, 「辛抱」という言葉。意味は我慢して。</p>
<p><面談 31></p> <p>調査者：自然に覚えちゃった↑</p> <p>N.S. : 分からないときには聞くね。</p> <p>調査者：あー, 聞くかあ。そうだよ。でも, 自分でこんな風に上手に使えるようになったのは, 理由はなんでしょう↑</p> <p>N.S. : 勉強かなー。</p> <p>調査者：勉強。話すことは多かった↑</p> <p>N.S. : 昔は。</p>
<p><面談 32></p> <p>調査者：(録音テープを聞いて) これ, Kさんに教えてるんですか↑</p> <p>N.S. : あれはねえ, 他のとこ。</p> <p>調査者：あつ, 応援に行ったの↑</p>

N.S. : いや、あれは組み立てする仕事。

<面談 33>

調査者：機械を作ってるわけですよね。どのくらい締めたらいいとか↑

N.S. : あれはね、カチンって締まる場所まで。

調査者：1回、カチン↑それとも2回、カチン↑

N.S. : あははっ。

調査者：その辺の感じは、どうやって覚えた↑

N.S. : うーん、何かおかしい、もう1回、カチン。

調査者：それでもおかしい、カチン。もう1回だな、カチン。そういうのは教えてもらうの↑それとも、自分で覚えるの↑1回カチン

N.S. : 1回だけ教えてもらうね。

【(4)の総括】

上記の面談の文字化資料を理解度別に比較し、調査のポイントでまとめたのが以下である。

- ☆ どのようなとき、日本語によるコミュニケーションが必要となるか。主な話題は何か。
 1. トラブルが生じたとき必要となる。話題は、メカの不良、欠品やボルト締めなどの部品や操作におけるトラブルについて、質問、相手からの質問への応答、状況説明が必要となる。
 2. トラブルの程度により、同僚、リーダー、職長など、コミュニケーションの相手が異なる。
- ☆ 現在の日系人従業員は、どのような日本語のレベルか。
 1. 理解度 30%の人は、単語レベルで質問に答える形式で、50%以上の人は、単語レベルでのやりとりでも、情報を補足しようとするなど意思疎通をしようとする姿勢がある。
 2. 理解度 30%の人は、例えば「8時から仕事を」という、省略形であっても yes/no 形式の質問には答えられるが、「いつも、休みの日は何してますか」という 5W1H 形式で時制が関わるような質問は理解できない。
 3. 作業に必要な単語「不良、ゼロサイ、欠品、部品番号」などは、繰り返し使われるため、人に教えてもらう、何度も使うというこで、理解していると自分では思っている。しかし、実際には、理解度に関係なく、よく使う単語「よし、行こう、ゼロサイ、黄ペンなど」などの意味を正しく理解しているとは限らない。
 4. 部品やトラブルを口頭で説明するのは難しい。特に、従業員が所有する PHS では。例えば、「だめだ、問題だ」のようなレベルである。
 5. 50%以上の人は、自分の日本語について話すことができる。また、「もう、まだ、今は、ちょっと」など、表現の幅を広げる単語が使える。
 6. 双方の共通知識と単語の連発で乗り越えられる作業上のコミュニケーションとは異なり、話題が限定されない面談では、相槌、相手の発話に対する「はい/いいえ」などの最初の受け方、相手の長い発話の中から単語を抽出しての聴解ストラテジーの力量によって、コ

コミュニケーションの質と発話の連続性に差異が生じる。

7. 理解度に関係なく、作業で覚えていく（正確さに問題はあがるが）専門用語より、「辛抱、調べる、処理する」などの単語の獲得が難しい。

◇ 作業遂行に必要な日本語をどのように学習したか。

1. 理解度に関係なく、人によって日本人の同僚に聞く、ノートを取る、配偶者や友人に聞くなど、自学自習をする。
2. ブラジルで日本語を学習していても、面談調査でのやりとりでは最低限の単語での応答であった。
3. 自己表現や作業の確認に必要な単語（疲れた、俺、コルクは忘れた、全部縮めたなど）は獲得している。
4. 子どもの病気で必要に迫られて勉強する、作業終了後は疲れている、残業があると時間がない、日本語を独学している人も学習より仕事を優先するなど、日本語学習には動機と時間が大きく関係する。
5. 在日年数と就労年数の多さが日本語の習得、日本語への慣れにはつながらない。
6. 日本語のレベルと作業上の工夫をすることとは関係ないが、単語を作業で覚えていくので、作業に取り組む姿勢が日本語獲得に影響を与えることになる。

◇ コミュニケーションを円滑に図るためにはどのようなことが不可欠か。現在の日系人従業員はどのようなコミュニケーション力が不足しているのか。

1. 面談ということで質疑応答中心となるが、30分の面談中、調査員からの様々な話題を理解しよう／聞き取ろうという姿勢と理解度とは別で、今後も含め仕事への意識の差異と関係した。実際の会話の中で身につけようとする意欲が必要である。
2. 作業に関する予備知識があれば、経常作業に関しては、単語レベルでコミュニケーションが成立し、最低限のコミュニケーションの目的は達成できる。自分から話題を正確に出す表現力として説明力が必要である。
3. 復唱などの確認という言語行動が必要である。例えば、「いつも、休みの日は何してますか」の質問に「まだ、分かんない」と即答する。「休み（の今日）は何をしますか」と理解したためと考えられる。作業では、単語レベルで済むが、このような面談では問題となるので、自分の理解を確認する会話ストラテジー（戦略）が必要となる。
4. 最初の発話に続いて情報の補足のための発話力、会話を双方で作り上げる意識をもって、相手の発話を促すもの、例えば相槌や「なるほど、そうか」などの感情表現が必要となる。

以下は、面談調査で録音調査で得た文字化資料をもとに使用言語のことについて質問した結果をまとめたものである。

◇ 母語使用

1. 作業中は、近くの日系人同士と話すときにポルトガル語を使用する。
2. 勤務以外、生活場面では、大部分は日系人とポルトガル語で話す。

◇ 話題

1. 作業中のポルトガル語での会話は、生活、家庭、工場内、作業のことである。
2. 作業中の日本語での会話では、作業、冗談などである。

3. 勤務以外は、仕事全般、子育て、お金、病気、休みのことなどである。

◇ 人間関係

1. 前の会社や前の居住地のときからの友人と交遊がある。
2. 現在の会社の人や会社内での付き合いである。
3. 近所の日系人とは親しく付き合っている。
4. 自分や配偶者の親戚、その配偶者などとよく連絡をとっている。

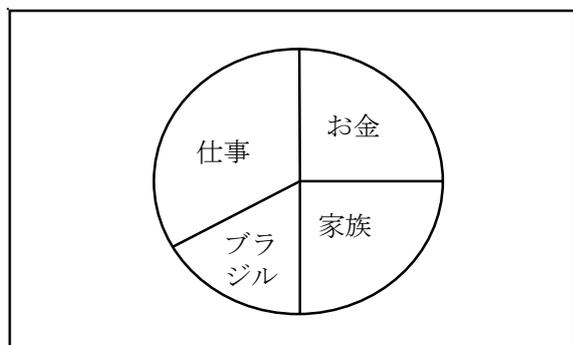
◇ 職場外での日本語使用

1. 病院、医者
2. 買い物
3. 前の会社や前の居住地のときからの友人
4. 日本にいる自分の親戚
5. 配偶者の親戚

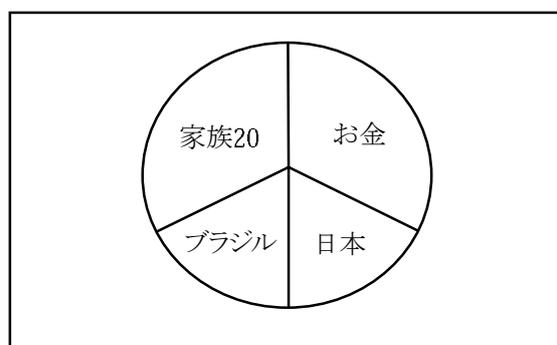
(5) 認知マップの結果

面談調査時に、調査協力者に認知マップ、対人マップの作成を依頼した。目的は、日本語の使用環境や学習環境、コミュニケーション環境、個人の労働や日本語学習のニーズを知ることである。その場で作成した各マップは、面談調査で話題として用いた。理由は、工場の作業におけるコミュニケーションは、共通の知識や認識があって行われることが多い。そこで、面談調査で、共通の知識や認識がない雑談により、調査協力者の日本語使用・理解の実態を知ろうとした。認知マップから、現在の自分が重要視していることをまとめると、以下のようなになる。なお、面談調査を実施できなかった Y.P.と K.M.からは資料を得られなかった。

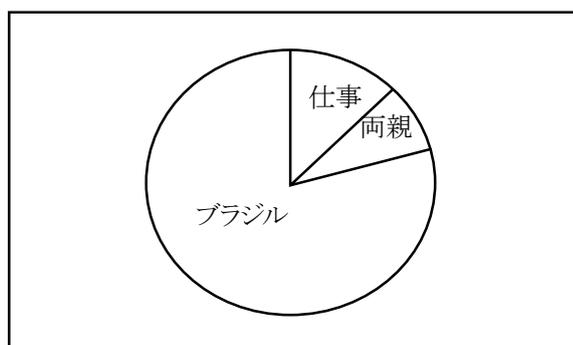
E.N. (理解力 70%)



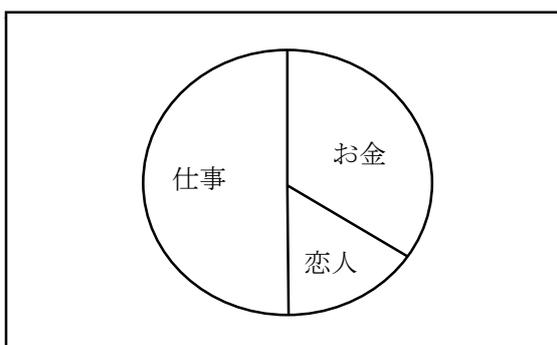
A.K. (理解力 70%)



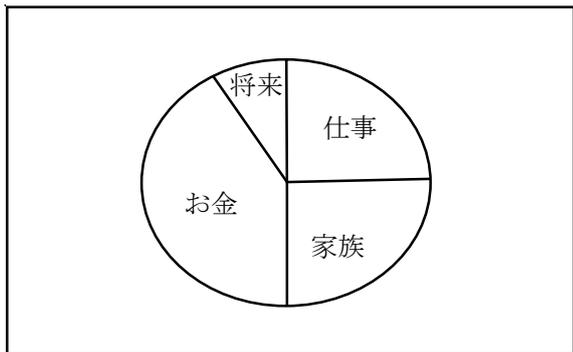
B.R. (理解力 70%)



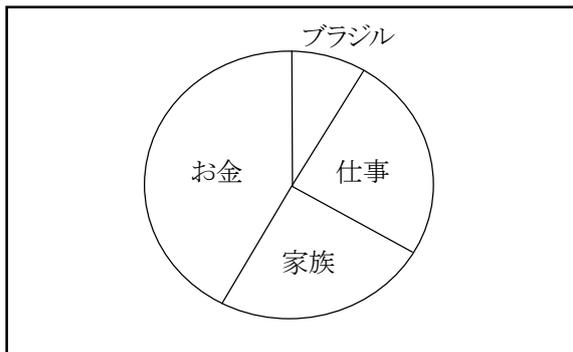
N.S. (理解力 90%)



F.M. (理解力 30%)

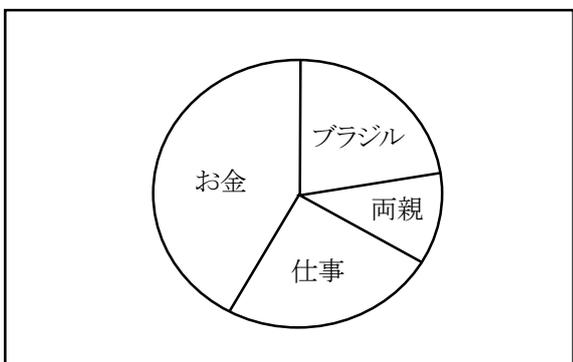


T.D. (理解力 30%)

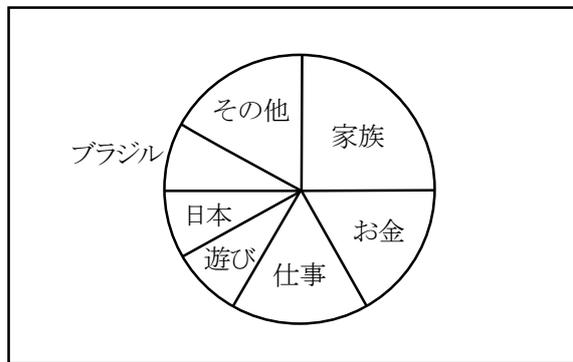


※なお、「ブラジル」とあるのは、母国の意味もあるが、面談での聞き取りから、母国にいる身内の意味が強いことが分かった。

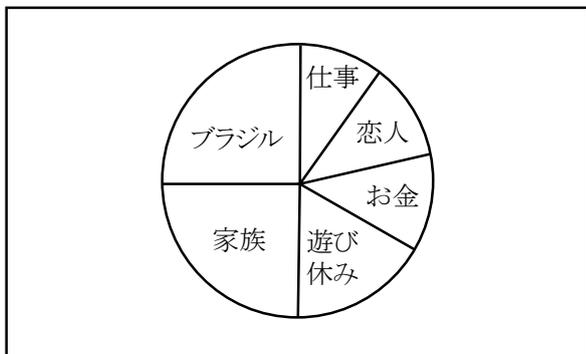
M.K. (理解力 30%)



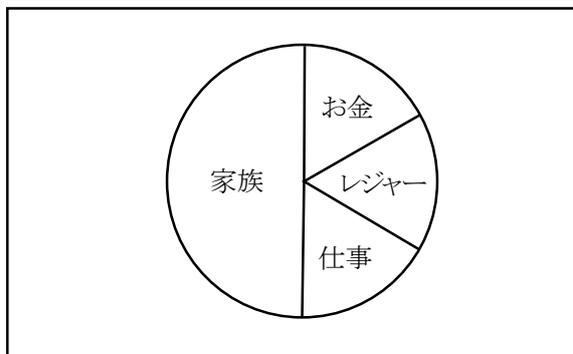
S.R. (理解力 50%)



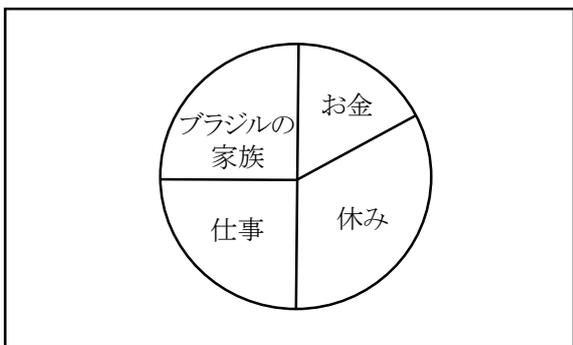
I.S. (理解力 30%)



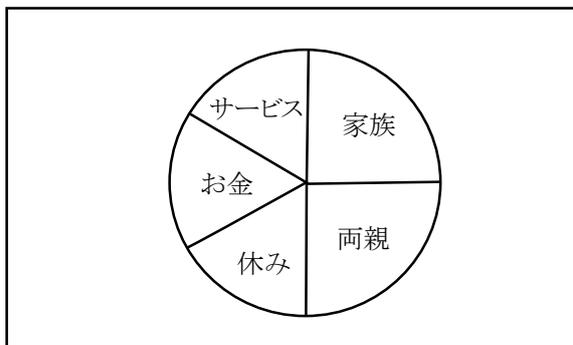
S.S.1 (理解力 90%)



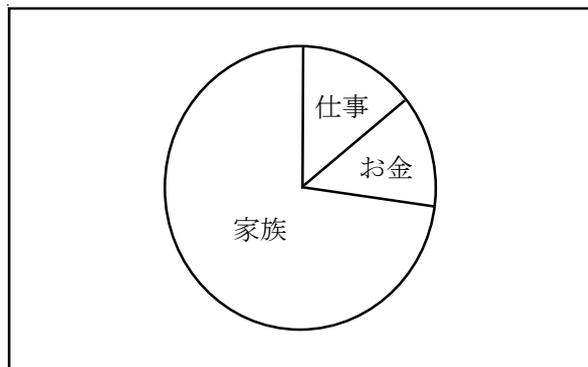
T.A (理解力 30%)



S.S.2 (理解力 50%)



N.E (理解力 70%)



(6) 対人マップの結果

対人マップから、現在の自分が維持している人間関係の親疎（とても親しい>親しい>少しだけ親しい>知り合い）をまとめると、以下ようになる。なお、面談調査を実施できなかった Y.P. と K.M.からは資料を得られなかった。

E.N. (理解力 70%) : 妻, 子供, 両親>日本の友人>遠距離の日本の友人>なし

A.K. (理解力 70%) : 恋人>母親>弟>父

B.R. (理解力 70%) : 夫>母親>近所の同国人>同国の友人

N.S. (理解力 90%) : 恋人>兄>同国の同僚>近所の人

F.M. (理解力 30%) : 夫, 母親>姉妹>同国の友人> なし

T.D. (理解力 30%) : 夫>家族, 友人>同国の友人>同国・日本の友人

M.K. (理解力 30%) : 両親, 兄弟, 恋人, 数人の友人>古い付き合いの同国の友人>数人の同僚, 仕事以外の同国・日本の友人>挨拶程度の人

S.R. (理解力 50%) : 家族>同国の友人>日本人の友人>その他

I.S. (理解力 30%) : 恋人>従兄たち, 同僚の年輩者たち, 知人>日本人の上司>同国の同僚

S.S.1 (理解力 90%) : 娘>夫>兄弟>同国の友人

T.A. (理解力 30%) : 母親>姉妹>同国の同僚>なし

S.S.2 (理解力 50%) : 娘>夫>なし

N.E. (理解力 70%) : 家族>夫>同国の友人>仕事の仲間

(7) コミュニケーションマップの結果

コミュニケーションマップ（個人情報保護の観点から記載しない。）から、1週間前後のコミュニケーションの状況から次のことが言える。今回の調査では、1週間という範囲で資料の作成を依頼した。したがって、当該1週間に日本語によるコミュニケーションがなかったからといって、日常すべてにないわけではない。また、単語レベルでの発話について、調査対象者自身がコミュニケーションをしたという認識がなく、記述しなかったということが考えられる。なお、提出した調査対象者は6名である。

◇ 子どもを連れて病院へ行った一人を除き、日本語を使用した事実の記述はなく、すべてポルトガル語によるコミュニケーションであった。

- ◇ 会社内でのコミュニケーションを除き、日本語を使用した事実の記述はなく、すべてポルトガル語によるコミュニケーションであった。
- ◇ 面談調査のとき、スーパー等での買い物の際に、日本語を読む、日本語を聞く、単語レベルの日本語を話すことがあることが分かったが、その調査対象者たちも日本語を使用した事実の記述はなかった。
- ◇ 面談調査で日本の友人がいると述べた調査対象者も日本語を使用した事実の記述はなかった。

【（５）（６）（７）の総括】

この項の冒頭で述べたように、三つのマップは、今回の調査では、録音、観察、面談の各調査を通じて、日本語についてのとらえ方、考え方を知るための補足資料という位置付けである。この資料の使い方の一つとして、面談調査での自分自身についての説明と、各マップでの記述を比較し、日本語力の問題で十分に伝達ができなかった情報の修正をすることがある。したがって、ここでは、面談調査からの情報も踏まえて述べる。なお、調査対象者の年齢、家族環境については、事前収集の対象とできなかったため、その点での比較検討はしない。また、少数の調査対象であり、ステレオタイプを排除するため、男女差といった比較検討も基本的に行わない。

1. 認知マップの仕事という表現には、仕事の内容よりお金ということが強く関わる。
2. 認知マップの仕事という表現には、就労の期間や場所、現給与、現作業の改善などが含まれる。
3. 認知マップのブラジルという表現には、家族の暮らし、帰国後のことの意味が含まれる。
4. 認知マップの日本という表現には、現在の暮らし、日本での今後の生活という意味が含まれる。
5. 対人マップでは、同国人、日本人の同僚が挙げられている。※面談調査を合わせると、現在の会社、就労、作業、工場の雰囲気、待遇、人間関係については全員がよい評価をしている。なお、派遣社員、派遣会社の社員ともに、現在の会社への応募競争について言及する人が多かった。
6. 全員が家族、身内中心の生活態度であり、コミュニケーションや話題の中心もそうになっている。
7. 仕事での上昇志向があっても職場を離れて日本語コミュニケーションに積極的な人はいない。
8. 休み、休みの過ごし方、趣味を書いた人は全員独身である。
9. 家族の同伴の有無や近在の親族の有無などによって、現在の生活環境の維持の度合、日常のコミュニケーションの範囲に差異がある。
10. 新たにコミュニティを作ろうとする行動や認識は見られない。
※面談調査を合わせると、現実的な問題に対して必要なコミュニケーション力を身に付けることを望んでいることが分かる。
11. 来日直後に就労した会社、居住地でできた日本の友人の影響を強く受け、今も連絡を取っている。
12. 近隣の身内とは常に連絡を取っている。
13. 日常生活でのホームパーティやお出かけのときは、身内や同国人の家族やその縁戚と行う。その中には、日本人と結婚した人もいるので、多少の日本語を使う。
14. 職場と生活、日本人と同国人、同国人と同国人どの間に切り分けがある。その基軸となるのが自分の家族と暮らしである。※面談調査と合わせると、今後の家族との暮らしをどう考えるかによって、今後の希望、日本語習得への態度は強く影響を受ける。

(7) 日本語文書等の結果

工場内や作業工程で、掲示物、配布物、作成物など様々な形態で日本語の文書を読み書きする。朝礼配布物や作業操作の指導マニュアルの一部にはポルトガル語訳があるが、大部分は日本語による文書である。以下に、その資料の代表的なものを掲載する。なお、個人が特定できるもの、業務上支障があるものについては消去した。しかし、自筆物は、必要な情報と考え、そのまま掲載した。

(A) 朝礼と配布資料の例

1/31 (木) 朝礼

- ・ 現在の品質状況は、マウンター生産台数■台、不具合6台、全体直行率■%です。JWは生産台数■台、不具合ゼロで直行率100%でした。先々週は出荷検査指摘がゼロでしたが、先週は4台発生しています。また、工程内では■■■■ポルト不締まりが■■■■していますので、締めてキーベンを付けるまでは集中して、途中で作業中断をしないでください。
- ・ 明日より、■■■工場から4名の応援者がきます。マウンター生産3名、ロボット生産へ1名です。
- ・ 本日15:05から2階会議室でCSRセミナーを行います。対象者は時間に遅れないように参加してください。セミナーは15:05ジャストからスタートします。
- ・ 製造部の全体朝礼は来週●月曜日²予定です。

• A situação da qualidade no mounter é de 129 máquinas produzidas, 6 furoyas, porcentagem geral de 95.3%. No JW foram produzidos 303 unidades, zero de furoyas, porcentagem de 100%. Ainda está sendo encontrado vários parafusos frouxos na máquina, vamos trabalhar sem perder a concentração e no possível não interromper o serviço pela metade.

- Hoje à partir das 15:05 hrs haverá seminário de CSR.
- A reunião geral será na segunda-feira.

※支障がある語は消去。

2/1 (金) 朝礼

- ・ 本日より職長の担当が1部変更になります。変更工程を連絡します。6号館(テープフィーダーのぞく)－高橋職長、部品庫－新藤職長、印刷機・給送・ハンドラー－北川職長、大型メカ・電気・エージング－鈴木茂司職長です。
- ・ CCSアカデミーで記入した3つの約束を覚えていますか、1ヶ月ごと自分たちの行動について評価を行います。各工程にある用紙を確認し、グループ員で1ヶ月の状況を○×△の3段階で評価しましょう。もしも、△×になった項目があるようでしたら、2月はより意識し、○を目指しましょう。
- ・ 来週月曜日に製造部全体朝礼を行います。8:00までに食堂へ集合してください。
- ・ 今月の改善提案締め切り日は8日(金)です。休日を利用して書きましょう。
- ・ ヤマハラクビーを応援しよう。明日14:00からヤマハスタジアムにて東芝戦が行われます。チケットに若干の余裕がありますので、応援して下さる方は、職工長へ声を掛けて下さい。先着でお渡しします。

.Hoje deverá ser feito a avaliação das metas do CCS para o mês de janeiro. Fazer a verificação com todos os membros do grupo e anotar se as metas foram ou não cumpridas colocando O X Δ. Os grupos que anotaram Δ ou X em janeiro, se esforçar para que todos cumpram as metas em fevereiro.

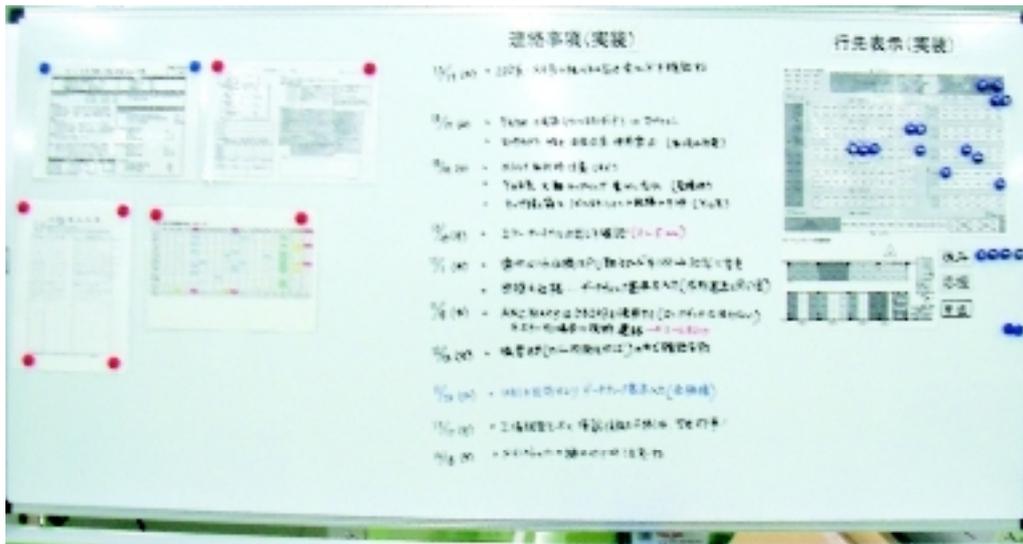
.Segunda-feira à partir das 8 horas haverá reunião geral no refeitório.

.O prazo de entrega do papel de ideias (kaiten teian) será dia 8 (sexta-feira).

.Sobrou entradas para o jogo de rugby que será realizado amanhã à partir das 4 horas no estádio de Yamaha contra o time da Toshiba. As pessoas interessadas avisar o shokucho ou koocho.

(B) 日本語表示資料の例

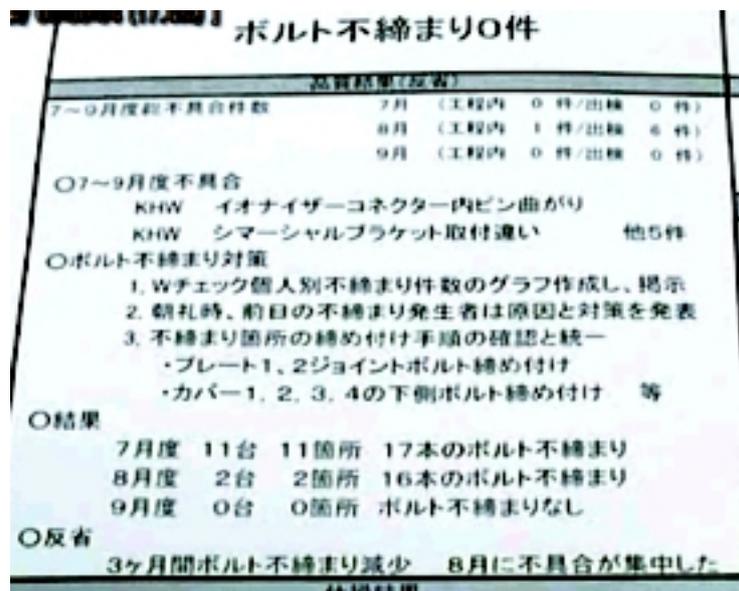
前述の写真 18：各部署にあるホワイトボードの掲示



前述の写真 20：欠品表の表示



前述の写真 21：掲示版の表示



前述の写真 19A・B：ホワイトボードの手書き掲示（拡大）

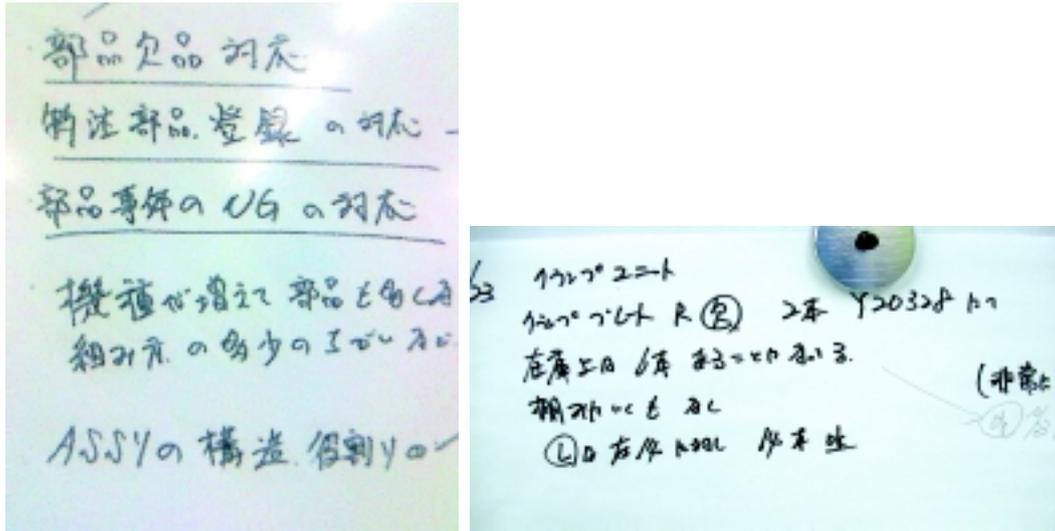
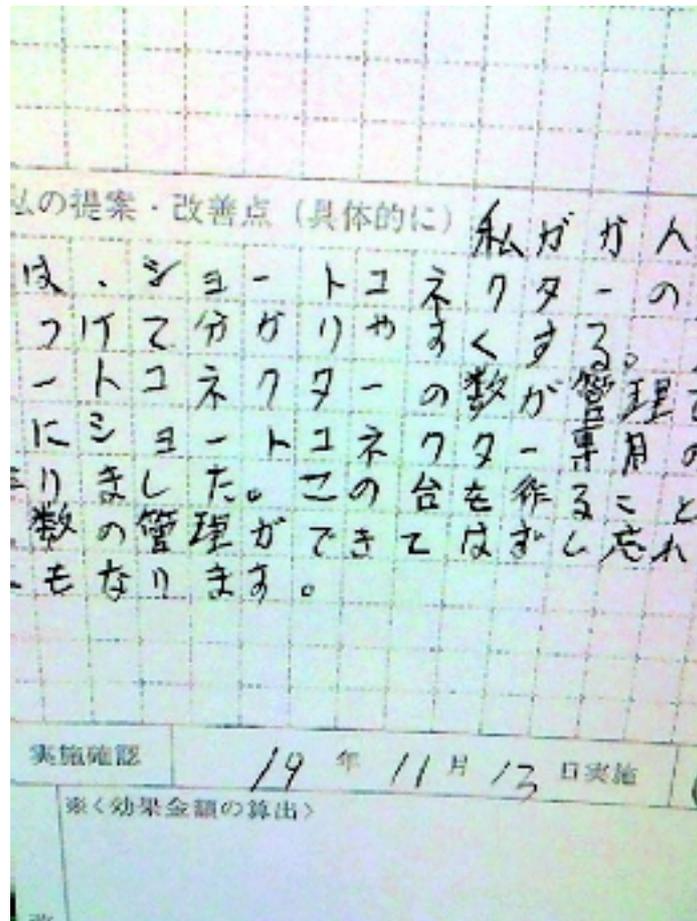


写真 23：掲示版の改善・工夫案（優秀評点のものが掲載される。）



(C) 自己作業ノートの例

No.

Date

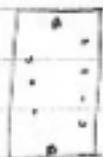
* Shiro ffo "Tema" sempre p/ ffo maq.

- Motor W (lado esquerdo) prende ffo Tema.
- Placa aluminio
- Ffo verde e amarelo (2 untes)

Placa preta da maq (que moviment) prende um ffo Tema, de cada lado, coloca as 2 ovelhas uma cada lado ffo Tema, uma ovelha em baixo da placa preta.

- Ffo Sensor - Cada lado, passar Kipen
- Ffo Sensor ORG, sempre lado esquerdo, prende c/ rishichu

Placa aluminio que vai prender o Kiburu...



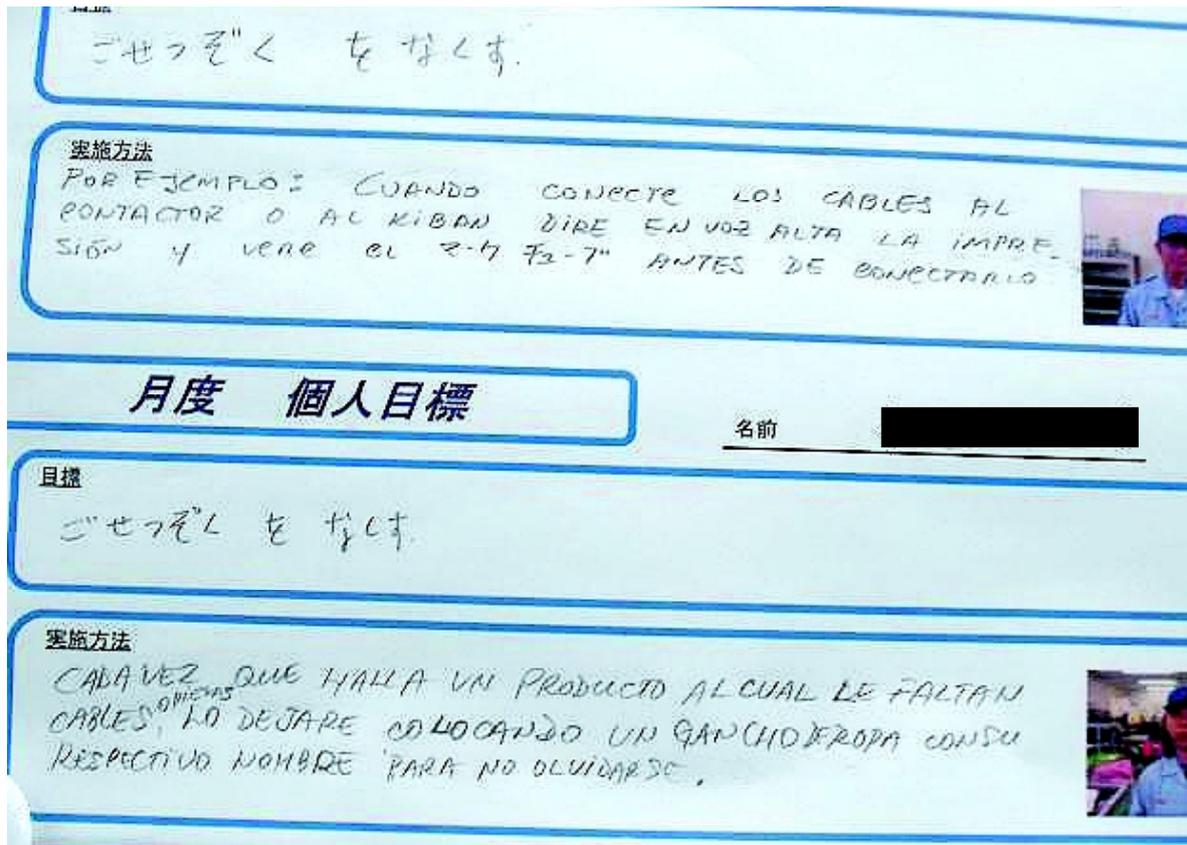
Prende parafuso Kipen

Shiro Tema 13 total

- Prende o Kiburu, c/ parafuso 4x8
- Coloca 2 placas cinzas e tampa preta uma de cada lado
- ha hora de prender placa p/ voce, e prendendo c/ rishichu

* Prende as plaquinhas para p/ mim l., depois p/ outro lado, coloca os plastico p/ ficarem juntos

前述の写真 22：掲示版の手書きの月間個人目標（拡大）



※氏名等は消去。

【(7) の総括】

- ◇ 職場では、作業遂行のためにどのような日本語を理解、使用する必要があるのか。
 1. ホワイトボードや掲示板にある手書きの字を、短時間で読むことが多い。
 2. 一日の作業でワープロ文書による日本語情報は非常に多い。
 3. 専門用語、工場内用語が多い。
 4. 表記は、例えば長音記号の有無などをはじめ、人によるものがある。
 5. 英語、カタカナ語、数字、漢字が混じった文書が多い。
 6. 下記の資料を自分で書くことがある。なお、表現や語彙はパターン化したものが多い。
- ◇ どのような資料が職場にはあるのか。
 1. 作業改善案、作業目標、作業指示、通達、問題点が書かれた文書。
 2. 操作マニュアル、伝票、注文票、作業記録・報告といった文書。
- ◇ その資料の使い方、使われ方はどうか。
 1. 作業上のトラブルの際、メモやノートに図表や単語を書きながら検討することがある。
 2. 自分が作成した作業ノートを用いて、日本語で話し合うことがある。
- ◇ その資料で使われる言語は日本語かポルトガル語か。どのように使い分けているのか。
 1. 会社：朝礼での通達文書、標示、操作マニュアルは翻訳されている。作業目標は、ローマ字表記、平仮名表記（少しの漢字を含むこともある）で書く。
 2. 自分：大部分の人が作っている作業ノートの記述はポルトガル語である。